

## 事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 30年3月30日

2次評価日（課長等） 30年3月30日

1 事業名	環境浄化・青少年非行防止活動事業	コード	102202
-------	------------------	-----	--------

2 担当部課	部等 教育部	課等 生涯学習課（生涯学習活動センター）	作成者 笠原利彦
--------	--------	----------------------	----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	生涯学習の推進	施 策	青少年の健全育成
		予算科目	環境浄化・青少年非行防止活動事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	関係機関と連携し青少年が非行に走らないようにする。		
目的	対象者	市民	
	意 図	青少年の健全育成、非行防止の推進	

5 事業の実施内容	*29年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
1. 青少年の非行防止活動	少年愛護委員による市内のパトロール「愛の声かけ」による指導を行った。 実施日数 97回、従事委員延べ人数264人、声かけ延べ人数143人		
2. 社会環境浄化活動	7月7日（金） 午後8時から深夜パトロール警察官も同行してもらい行った。		
3. 街頭啓発活動	7月3日（月） 「青少年の非行・被害防止全国強調月間」 ララオカヤ前 11月1日（水） 「子ども若者育成支援強調月間」 西部中学校、岡谷南高校、ララオカヤ前		
前年度の課題への対応	愛護だよりに子どもの居る場所を掲載し愛護委員の情報共有を図った。		

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度				
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	少年愛護委員のパトロール日数			単位	日
実績値	128	107	97		
*指標の説明	少年愛護委員のパトロール日数				
② 成果指標（指標名）	青少年健全育成協力店の数			単位	店
目標値	666	644	582	480	
実績値	597	563	481		
達成度	89.6%	87.4%	82.6%		
*指標の説明	青少年健全育成協力店の数				
*目標値の設定方法の説明	岡谷市内の協力店依頼対象事業者数（既協力店含む）				

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	1,358,428	1,147,525	1,014,515	1,218,000
経常経費	1,358,428	1,147,525	1,014,515	1,218,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	5,600,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
正規職員の人数(人)	0.70	0.30	0.30	0.30
③ 合計コスト(①+②)	6,958,428	3,547,525	3,414,515	3,618,000
前年度比		51.0%	96.3%	106.0%
財源	6,958,428	3,547,525	3,414,515	3,618,000
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	54,363	33,154	35,201	
前年度比		61.0%	106.2%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
県青少年愛護センター 連絡協議会負担金	件数	1	1	1	1
	金額	15,000	12,000	12,000	12,000
県青少年補導委員連絡 協議会負担金	件数	1	1	1	1
	金額	18,000	18,000	20,000	20,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	33,000	30,000	32,000	32,000
	割合	2.43%	2.61%	3.15%	2.63%

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

低い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		0
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値	前年度比
	85.4%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値	達成度
	82.6%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課 題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) パトロールをしても街で子どもを見かけない。	
	改 善 方 法	(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 研修会等を開催し子どもの実情等について把握する。 通学時間帯にパトロールできるような委員の選出方法を検討する。
		改善開始時期

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	C
-----------	--------	---	---